

アプローチ

「リズム感」から

園長 福田孝子

ススキヤコスモスが揺れ、草むらからは秋の虫の音が聞こえてくるよりになりました。

連日の猛暑の中、こどもたちは、プールや浴盆、おままごとといった夏ならではの遊びを通して、友だちとの関わりが深まり「一緒に遊ぶ楽しさ」を味わってきました。

年少児は、遊びの中で玩具の取り合いがあっても、その経験を通して「貸して」「いいよ」「待ってね」と貸し借りができるようになり、順番を学習して、自分の思いを通すだけでなく、相手の気持ちに気がつき、思いやりのある言葉をかけ合えるようになつています。

毎日やってきた着替えや衣服の洗濯も上手になりました。

年中から年長児は、水に顔をつけたり着たり、バスタ足したりを「目とこね」とできるよりになったことを喜ばれています。

励まし合ふと一緒に頑張ることの大切さと、あきらめないで続けなければならないという自信が湧いてきます。

夏の遊びを通して身に付いたことや育ぐまわってきた自信を、意欲と思いやりに乗せて、運動会から始まる秋を迎えたいと思っています。

ロンドンオリンピックが終了しました。

紀元前七七六年に行われた第一回オリンピックでは、体育競技の他に音楽的な競技も同時に行われたそうです。

体育では最高記録（レコード）よりも競技中の動きがリズムカルで洗練されている人が勝利の栄誉を得たと言います。

つまり、大事な要素がリズム感と音楽の基本に、リズム×ロケーションの三つがあげられるように、どんな音楽にもリズムは欠くことのできない大切な要素です。

運動はどうでしょう。

リズムに乗せた流れの中で様々な演技が行われます。

揮洒れ、成果を生み出すことが大切です。

音楽と運動との共通点はリズム感だとと言えるでしょう。

小さい頃から何気なく音楽に合わせたり、リズムを刻んでいると、感覚でそれを覚え、だんだん自分でリズムを合わせることができるようになります。

それがリズム感として生きてくるのです。

体で覚えたりリズムは、生活の様々な場面で生かされています。

どうも第34回松の葉運動会ではリズム感という角度からアプローチして、こどもたちの創作も音楽も、運動も、段階的なま月ちを楽しんでいただきたいと思えます。

その日、健やかに育ち、元気な子どもたちが贈るメダルはオベレ金メダルです。

金メダルです。

後援会みなさま

子どもたちへの金メダルづくりと記念品プレゼント、ありがとうございます。